

シャットネラ アンティーカ

赤潮生物種 : *Chattonella antiqua* (HADA) ONO
ラフィド藻綱ラフィドモナス目ヴァキュオラリア科



左・右: 栄養細胞

- 大きさ : 長さ50～130 μm , 幅30～50 μm
- 細胞の形態・色 : 単細胞, 後端が尾状に尖る紡錘形で, 頭部は扁平。黄褐色。
- 遊 泳 : 細胞先端よりやや後方の位置から2本の鞭毛が伸び, うち1本の遊泳鞭毛を進行方向に伸ばし, ゆっくりと回転しながら泳ぐ。
- 類似種 : シャットネラ マリーナと形態が似ており, 本種の方が大型, 扁平, 尾部の伸張で区別するが, 環境や刺激等により容易に形態が変わり, 小型化したものでは判別が困難になる。
- 赤潮発生時期 : 6月下旬～9月上旬
- 赤潮発生海域 : 八代海
- 出現環境 : 適水温・適塩分はそれぞれ23～26 $^{\circ}\text{C}$, 30以下
- 被 害 : 主にブリ, カンパチ。八代海ではたびたび漁業被害が発生し, 特に2009年, 2010年には20億円を超える甚大な被害が出た。
- 特記事項 : 魚毒性はきわめて強く, 最低致死細胞密度は30～50cells/ml。表層水温が26 $^{\circ}\text{C}$ を超えるあたりから, 早朝は表層に日中は水深3～5m層に分布が偏る傾向があり, 表層に分布が偏る時は, 特に潮流(大潮)や風等による移動が顕著である。
大潮終了後特に閉鎖性水域で細胞が残れば, 小潮にかけてさらに細胞密度が増加する場合が多い。
なお, 粘土散布は *Cochlodinium polykrikoides* の5倍前後の散布量が必要である。